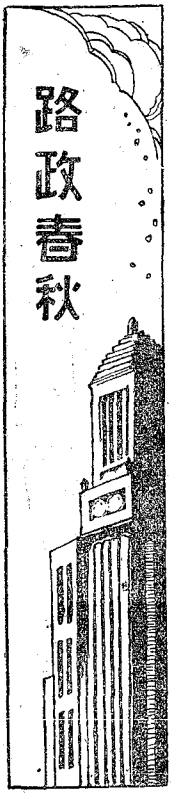

注意

本欄は讀者諸君の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渉らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

奉祝事業は產業道路鋪裝に輝く

紀元二千六百年、輝く世紀の黎明をうけて各種奉祝事業の遂行に努めて居る中に鹿兒島縣ではこんど農業王國の名にふさはしい產業道路鋪裝の大土木事業計畫を進めてゐる。夫れは現在鹿兒島市を中心とする鋪裝完成道路は谷山町にいたる七キロ伊敷村にいたる三キロに終つてゐるが、これでは各地からの物資輸送、集散に大なる不便が嵩むうへ、さらにわが國南進據點として軍事國防上の役割すらも果せないうらみがあるところから縣當局では是非皇紀二千六百年の奉祝事業として市を中心とする國道の改修鋪裝を完成しようと藤野知事初め土木關係者は大ハリキリで此程十五年度土木事業として大體つぎのごときプランをたてた

その第一としてあげられるのは縣下で最も交通量の多い磯街道から加治木にいたる全長二十二キロ半を總工費三十萬圓（半額國庫補助で鋪裝、これはすでに設計も完了して將來は霧島國立公園の登山車道につながる鋪裝化が計畫されてゐる、第二は市外伊敷電車終點から伊敷村字小山田にいたる全長九キロを工費十萬圓（三分の一は縣費）で鋪裝し、すでにこれも設計に着手してゐるが、ちかく市制實施を見る川内町につながり、市と北薩とをつなぐ主見幹線鋪裝道路として浮びあがらせやうとする、第三は谷山と泉都指宿を結ぶ全長四十キロを改修鋪裝、（これの豫算未定）さらに山川へ八キロ山川、枕崎を結ぶ五十キロにまで延長、南薩の物資輸送に劃期的な革命を齎らさうとするものである。斯くて重要道路の鋪裝化に奉祝事業は其の光を放つのである。

重要都市に大綠地の誕生？

內務省計畫局では記念すべき紀元二千六百年を期して既報の如く全國都市に過大都市防止と防空と國民保健を目的とする六十二の大小綠地を造成することに決定、其の大綠地は一ケ所が五十萬坪內外で今年大綠地を造成する府縣は、▲東京七ケ所▲大阪

四ケ所▲名古屋五ケ所▲横濱三ケ所の十九ケ所

小綠地は二萬坪內外で造成する都市は、▲東京八▲川崎二▲横濱四▲名古屋二▲京都三▲神戸二▲尼崎一▲大阪三▲西ノ宮一▲廣島二▲下關一▲北九州一▲福岡二▲大牟田三▲札幌二▲川口一▲小樽二▲室蘭一▲函館二、計四十三ケ所である。

この大小綠地造成に對する國庫補助金は二百萬圓であるが地元負擔は約三千萬圓と言はれるので將に劃期的大綠地事業である。此事業として見るに元來公園等は人工を加へて始めて利用價値があるが綠地は水田、田圃、山林等そのまゝで過大都市の防止、避難所國民保健のために役立つわけである。

ガソリン不足も何のその の國策街道牛の歩み

ガソリン規正の强化と貨物の激增はこゝに荷牛馬車の黃金時代を現出して昔を今に時代は逆行、萬に近き縣下の同業者を打つて一丸とする强制組合が、全國に魁て福岡縣に出現、國策街道に健實な歩みを辿らうとしてゐる——曾てなき貨車の需要增大に國鐵その他の列車は山と積まれた滯貨を持て餘しガソリンに惱むトラックも同樣の狀態にあつてスローではあるが、遠距離でない限り最良手近な運輸機關として荷牛馬車が時局下に躍り出でたが、目下福岡縣下の荷馬車九千四十九輛牛車二百七輛計九千二百五十六輛が八千三百三十七名の牛馬車挽きに曳かされて時代を謳歌してゐるが、一面牛馬の不足と事變前月十五圓程度で足りた飼料が物價高騰と飯米七分搗き斷行の餘波を受けた糠の不足及び入手困難に依つて一ケ月の飼料は六十圓程度にも達し、從つて當然の結果として一日の運賃も事變前と現在を比較すれば縣下の平均で馬車五圓卅五錢が七圓九十八錢（一里一圓九十錢が二圓六十五錢に）き、牛車は四圓七十錢が七圓十五錢（一里一圓四十五錢が二圓十二錢に）と騰り一方的運輸が行はれつゝあるので警察當局は近く福岡縣馬匹運輸組合を結成せしめ輸送の圓滑と賃金の統制を期し膨脹する銃後運轉に資するとなつたものである。

農民の苦惱と名主の娘 の犧牲で隧道の出現

箱根蘆ノ湖の西畔から外輪山の根を貫き用水を導いて靜岡縣下の水田數十町歩を潤してゐる深良トンネル開鑿工事を繞る古人の義俠物語が木村毅氏の研究によつて明かにされたので近く箱根振興會から「深良隧道佳話」の印刷物を發刊することとなつた＝このトンネルは靜岡縣駿東郡深良村の名主大庭源之丞と淺草の住人友野與右衞門兄弟と箱根權現の別當快長、長誓、聖政の三僧等が七千三百三十五兩二分一朱の莫大な工費と八十三萬三千五百八十六名の人夫を使ひ總延長七百三十八間にわたる外輪山の根を貫き約二ケ年後の寛文十年二月この

大工事を完成した＝といふ事だけは今日まで一般に傳へられて來たところが二百數十年前天下の嶮箱根山中のこの大事業に遙々淺草の住人友野兄弟が協力し又莫大な資金をどうして調達し得たかについては全く傳へられてゐなかつたが箱根仙石原の學徒石村素雄君から齎された木村毅氏の研究に基けば＝いまから二百數十年前靜岡縣下に未曾有の大旱魃があり米飢饉に喘ぐ農民の慘狀救濟のため時の名主大庭源之丞は救濟米の調達に奔走したが、まだ十分でないため自分の愛孃お雪を淺草の苦界へ身賣させ漸く三百石の米を調達して罹災農民を取敢へず救濟した＝そして尙今後の旱害を防ぐには蘆ノ湖の水を水田灌漑用水にしなければと計畫を進めてゐた、農民の犧牲となつてお雪が苦界に身を投じその夜登樓したのが淺草で米穀商問屋を營む友野與右衞門がお雪から父源之丞の深良隧道開鑿の大計畫を聞いた早速御雪を身請し而かも自分も弟と共にこの大工事に協力し劃期的な最初の深良隧道を完成したとの譚。

今は昔橋上の人間天文臺

天文學の大家であり寛政曆の完成者である間長涯は浪花長堀川富田屋橋畔に住む質屋の主人であつたが仕草の傍ら毎夜富田屋橋上に現れてじつと星空を眺めてゐる、なにしろ幕府公認の天體觀測だから一町人とはいへ學者である、間生涯が橋上にある間は役人が橋の兩袂に頑張つて人ツ子一人通さないといふ嚴重な警戒をするといふ有樣だつた、今日の市立電氣科學館が富田屋橋とほど遠からぬ五ツ橋に建設され、科學の粹を集めたプラネタリウムが天體運行を再現してゐるあたりは、偶然ながら面白い今昔の因緣譚である。

國鐵驛入場券も街頭の問題

國鐵驛には送迎する毎に十錢の入場券代は非常に高價すぎる感が與へらるゝが頃日大朝紙上大阪驛の近藤助役の一文が掲載されて居つた、頗る興味あるので曰く＝旅客の混雜から相變らず驛の入場券が話題となつてゐるが入場券がはじめて發行されたのは明治卅年十一月五日で一人一回一錢だつた。當時は新橋とか大阪など特殊驛にかぎられ、送迎者の便宜をはかり、混雜を整理するといふ意味と不正乘車を防止する取締の意味とがふくめられてゐた。その後新橋驛が特に送迎客で混雜するといふので明治三十五年六月五錢に引きあげられついで東京、上野、大阪も同樣の理由で漸次引きあげ大正七年七月東京、上野、大阪三驛は一擧十錢に、その他は五錢に値上げされた。現在の入場券は昭和七年八月改正の制度により入場者十萬人以上の大驛——大阪を中心にいへば京都、大阪、三宮、神戸、岡山、廣島、名古屋、岐阜、富山、金澤など全國三十六驛が十錢、その他は五錢となつてゐる、しかし入場券の本來の目的は收入にあ

るのでなく、混雜を防止し、乘客の利便をはかるのであるから驛長の裁量一つでいつでも入場券の發賣を制限し、あるひは全く停止することもできるのであつて、大阪驛では昭和十二年七月十八日二萬一千人の入場者がどつと殺到し、列車の乘降が危險となつたため入場制限を斷行しそれ以來しば〳〵制限や發賣を停止してゐる。全く發賣を停止すると旅に馴れない老人や婦女子を旅立たす場合世話するものが附添うて列車の側まで行かれない。何とか便法を設けてもらひたいといふ聲もあるが正月元旦から九日までつゞいたあの人出の場合、危險防止のため發賣停止は何ともやむを得ぬ手段であつたと思ふ、當ホテルの使用人など宿客出迎へのため連日出入するものに對しては定期入場券がある。

地方牧民官もまた難いかな

舊臘某縣々會で或る課員が質問して曰く「事變前と現下に於ける政治の役割りは格段の差異を示してゐる今や幅をきかしてゐるものは縣民の進歩と發展に向ふ希望ではなく强權である、此現狀に想ひを致したとき縣は果して安如たり得るか加ふるに意義ある皇紀二千六百年を前にして縣はいかなる確信と抱負を有するか縣民は今や澎湃たる不安のうちにをのゝいてゐる、知事が若し二百萬縣民が事變の前途に眞に强い希望をもつて日々を過ごしてゐると考へてゐるとすれば大きな間違ひでありその依つて來たるは全て政治の貧困である。又經濟警察の職權濫用は官民相剋の意識を深くしてゐる强權によつて國民が自由になると思ふが如きは國を誤る重大なる獨善意識である縣はこれに對していかなる所見を有するか」と縣知事答へて曰く「時局認識の徹底、日本精神の顯揚等の我々に與へられた重大なる課題に應へる道は縣民ともにおのれをむなしうして全力を盡す外にはないと信ずるこれこそ日本國民の基本的心構へでなければならないと確信する。縣民の不安焦慮をどうするかは勿論充分考へるべき政策上の重要問題であるがそれに先立つてまづ縣民のすべてに全力を發揮させるべきだと信ずる自分の心念である云々」と地方牧民官もまた難いかなである。

政治と實生活の遊離

書いてよいやら、惡いやら、何日かの新聞の切が朝風に吹かれて御濠端を飛んで居た、手に取つて見れば＝國家の大方策が變つたら大變です……朝買つた靴下が夕方はもう破れます……スフの鼻緒は三日と持ちません……かうしてボン〳〵お金をつかはせて貯蓄させないやうに工面なさるのと綿の輸入を防くのと實際どちらが國策的なのでせう、……此の寒空に着物は冷たい、木炭はない、マッチがないでせう……。お願ひです、子供のものだけせめて赤ちゃんの日用品だけ今少し綿を返して下さい。皮を返して下さい。ゴムを返して下さい。

位のことは料理屋や劇場の滿員つゞきを防せぐお腕があればきつと出來ます。……勿論妾達は御國のためにはどんな苦難にも耐へる覺悟であります。たゞ子供達には何とかヤミだのウソだのいふ言葉をおぼえさせたくありません。さうして惡い人が榮えるといふことであつてもらひたくありません……」と泣くが如く訴ふるが弱い女の叫び聲とも思はれ强い女の悲憤とも見らるる「堅忍持久」の四字がへんぽんと强風にひるがへつてゐる初春の空は寒い。（みどり）

あるかなきかの珍聞

奇譚（78）

○南朝時代の甲冑

南朝の忠臣北畠顯家卿が愛用したと傳へられる甲冑がこのほど福島縣三春の舊藩主貴族院議員子爵秋田重季氏邸から發見され武器沿革史に特筆すべき重要な南朝關係史料として關係者をいたく驚喜させてゐる、この甲冑發見には次の如きエピソードが秘められてゐる。「顯家卿の歿後、子孫は青森縣浪岡城主として代々榮えてゐたが足利末期附近の豪族に滅ぼされ遺兒浪岡某は逃れて三春城の安東家（秋田子の祖先）に身を寄せたが謝禮の意味で贈つたのが同家に傳はる問題の甲冑でその後そのまゝ秋田家に秘藏のうちに世に忘れられてゐたが、この程帝室博物館に持込んだものである。依頼によつて斯界の權威文部省重要美術審査員帝室博物館學藝委員關保乃武氏が鑑定したところ、この甲冑は正しく南北朝時代の物で六百年前の物とは思はれぬほど見事に保存され、しかも實戰に用ひた形跡もあるといふ珍寶であるところから博物館では同家から三年間借用斯界の權威を招き種々研究を重ねることになつた。

冑は胴丸のうちで最も古いと稱される樫鳥威肩赤の胴丸で胸に杏葉が配され右袖の後には籠手摺り革がついてをり、兜は大鍬形があり鍬形の間に鍍金の日輪の前立物があり兜の鉢裏には一枚皮の正平韋が用ひられ、どの點から見ても貴重な發見とされてゐる「兜の鉢裏には正平韋を用ひてあるものは楠正成の胴丸位で日輪の前立物に至つては同時代の甲冑に見られない新式のものである樫鳥威は古いものでは後三年時代のもので三河の猿投神社の「楯無しの冑」に用ひてある位のものでこの冑と同一人の作と思はれるのに吉野北山にあつた「自天王」着用の胴丸があつたが惜しいことに火災にかゝつた、とにかくこの冑は南部男爵家の胴丸、自天王の胴丸、四國の炬口八幡にある新田義貞の胴丸、春日の正成の胴丸に匹敵するもので今日までかゝる南朝關係のものが完全に保存されたことは珍らしい」（東朝紙掲載）

百歳の壽をまつ父や

二日灸　紅雨